

令和3年度 そうか生きもの調査 調査種一覧

そうか生きもの調査運営委員会・草加市

調査種リスト

No.	植 物	区分	No.	鳥	区分	No.	昆虫・蝶・その他	区分
1	在来タンポポ	A	15	メジロ	A	29	モンシロチョウ	A
2	セイヨウタンポポ	C	16	キジバト	A	30	アゲハチョウ	A
3	セイトカアワダチソウ	C	17	コサギ	A	31	アオスジアゲハ	A
4	カントウヨメナ	A	18	カルガモ	A	32	ナガサキアゲハ	D
5	キタミソウ	B	19	カワセミ	B	33	ツマグロヒョウモン	D
6	スミレ類	A	20	コゲラ	A	34	アカボシゴマダラ	C
7	ミゾソバ	A	21	ツバメ	A	35	カブトムシ	B
8	イヌタデ	A	22	ツバメの巣	A	36	ニイニイゼミ	A
9	ツユクサ	A	23	ハクセキレイ	A	37	クマゼミ	D
10	ヨシ(アシ)	A	24	モズ	A	38	ツクツクボウシ	A
11	ハンノキ	B	25	ツグミ	A	39	オオカマキリ	A
12	エノキ	A	26	オオヨシキリ	A	40	シオカラトンボ	A
13	クヌギ	A	27	シジュウカラ	A	41	トノサマバッタ	A
14	幹回り2m以上の樹木	B	28	オナガ	A	42	アマガエル	B

計42種

- 区分 A 普通にみられるもの
 B ぜひ残したいもの(少なくなったもの)
 C 外来種(残したくないもの)
 D 気候変動により分布域が広がったもの

はじめに

- そうか生きもの調査は、市内に生息・生育する動植物について、市民参加により調査をするものです。
- 得られた動植物情報は、草加市の「生きものデータベース」として蓄積し、今後の生物多様性の取り組みを進めるうえでの基礎情報として活用します。
- 未来の子どもたちのために、わたしたちのまち「そうか」に生息・生育する動植物について、学びながら守っていきましょう。

注意事項

- ◆ この調査は、生きもの採集をしなくても調べられる内容です。
- ◆ 調査対象の中には、数が少なくなっている生きものも含まれています。調査にあたっては、生きもの保護にご配慮ください。(原則採取しない)
- ◆ 原則、民家や畑などには入らないでください。入る時は、所有者や管理者に許可をいただいでください。
- ◆ 無理のない調査を心がけてください。
- ◆ 小学生は、必ず保護者や先生と一緒に調査しましょう。
- ◆ 調査員に登録していただいた方は、万一のけが等の際には草加市のボランティア保険の対象となりますが、調査の際はけが等をしないように十分気をつけてください。



調査区番号①～⑩

- ① 瀬崎
- ② 谷塚、谷塚町
- ③ 谷塚上町、谷塚仲町、両新田東町、両新田西町、新里町、遊馬町、柳島町
- ④ 吉町、手代、中央、高砂、住吉、神明
- ⑤ 草加、西町、氷川町
- ⑥ 稲荷、青柳1丁目、松江5、6丁目
- ⑦ 松江1～4丁目、弁天、栄町、中根、八幡町
- ⑧ 旭町、新善町、金明町、清門、長栄、新栄
- ⑨ 青柳(1丁目を除く)、青柳町、柿木町
- ⑩ 松原、花栗、苗塚町、小山、北谷、北谷町、原町、学園町

調査方法

- ① 調査区は、市内を10の区域に分けています。
- ② この調査では、対象の生きものが「いた、見た、見つけた」かについて、いた調査区の番号を報告書に記入します。
- ③ 調査する場所は、市内ならどこでもかまいません。家のまわりや通勤、通学路など、市内の身近な場所で調査をしてください。
- ④ 調査する生きものは、ここで掲げている植物14種、鳥14種、昆虫等14種の合計42種の生きものだけとします。
- ⑤ 「見つけた数量」や「見た回数」は、対象にしません。

調査報告書

- 調査は随時としますが、報告書は原則として月ごとに作成してください。
- 報告書は調査した月ごとに作成し、**原則1か月に1回提出**してください。
- ※ 提出は、調査月の**翌月10日まで**をお願いします。
- 調査しなかった、又は見つからなかった月は、報告書の提出は不要です。

1 そうか生きもの調査報告書 FAX:048-922-1030

【記入例】 調査月：令和3年4月分
※ 原則、調査種42種の生きものを調査してください。

区分	種	調査種	発見区		発見区	
			区名	日付	区名	日付
植物	1	トウモロコシ				
	2	ヒメオドリコソウ				
	3	ヒメオドリコソウ	4	30/3	5	10/4
	4	オドリコソウ				
	5	オドリコソウ	6	29	6	29
	6	オドリコソウ				
	7	オドリコソウ				
	8	オドリコソウ				
	9	オドリコソウ				

市民活動災害補償制度の概要

- ◆市民活動災害補償制度(ボランティア保険)は、損害賠償責任事故、傷害事故及び特定疾病事故の3種類の補償からなっています。
- ◆市が損害保険会社と契約を締結しているので無償です。
- ◆損害賠償責任事故の対象者:
市民団体、市民活動実践者(ボランティア)
- ◆傷害事故及び特定疾病事故の対象者
 - ①市民団体の指導者、その構成員
 - ②市民活動実践者、市民活動への参加者
- ◆事故の内容によっては、必要に応じて契約損害保険会社が調査を行います。
- ◆事故が発生したら、環境課にすみやかに報告してください。

損害賠償責任事故

- 市民活動中に、市民団体等が管理監督の不振や指導、誘導のミスなどの過失により当該活動の参加者や第三者の身体や財物に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負う事故による負担を補償

区分	市民団体		市民活動実践者	
	免責金額	補償限度額	免責金額	補償限度額
身体賠償 (対人)	1事故 1,000円	1人 5,000万円 1事故 5億円	1事故 1,000円	1事故 3億円
財物賠償 (対物)		1事故 1,000万円		
受託物賠償	1事故 5,000円	1事故 500万円		

傷害事故

(事故対象)

- 急激かつ偶然な外来の事故により、負傷したり、死亡したり、又は後遺障害が生じた場合の事故を補償

(対象)

- 市民団体の指導者及びその構成員
- 市民活動実践者又は参加者

* 会場(集合、出発又は解散の場所を含む。)と自宅との通常の経路における往復途上の事故も対象

区分	補償額
死亡補償 (傷害により、事故の日からその日を含めて180日以内に死亡したとき)	1人 200万円
後遺障害補償 (傷害により、事故の日からその日を含めて180日以内に後遺障害が生じたとき)	1人 6万円～200万円
入院補償 (事故の日からその日を含めて180日以内の入院で180日が限度)	1人 1日 3,000円
手術補償 (事故の日からその日を含めて180日以内に受けた手術)	手術の種類に応じて、入院補償日額の10倍、20倍又は40倍の額
通院補償 (事故の日からその日を含めて180日以内の通院で90日が限度)	1人 1日 2,000円

特定疾病事故

- ① 被補償者が急性心疾患(心筋梗塞、急性心不全等)、急性脳疾患(くも膜下出血、脳内出血等)を原因として、市民活動中に死亡し、又は市民活動中に発症し、かつ、病院に搬送され、そのまま退院することなく30日以内に死亡した場合
- ② ①の規定による疾患又は熱中症等以外の疾患を、被補償者が市民活動中に発症し、発症してから24時間以内に死亡したことが医師の診断により明らかであって、かつ、死亡原因となる疾患名が特定できる場合

* 急性アルコール中毒、麻薬中毒その他公序良俗に反する行為により発症したものを除く

区分	補償額
死亡補償	1人 50万円

1. 在来種タンポポ



1. 在来種タンポポ(キク科)

- 花の時期: 3～5月
- 花の色: 黄色または白色
- 高さ: 15～30cm(日本原産)
- 土手などの日当たりの良い所に自生する多年草です。春に咲き、同じ種類の他の株から花粉をもらい、種子をつくります。日本に古くから自生しています。
- 特徴は、花びらの下の萼(がく)のような総苞外片(そうほうがいへん)が完全に直立する点です。これによりセイヨウタンポポと区別ができます。

2. セイヨウタンポポ



2. セイヨウタンポポ(キク科)

- 花の時期: 3～10月
- 花の色: 黄色
- 高さ: 15～30cm(ヨーロッパ原産)
- ヨーロッパ原産の多年草です。
- ほとんど一年中(主に3～10月)見られ、道端などによく咲いているタンポポは、多くがこの種のものです。
- 在来タンポポと違い、受粉しなくても種子ができることから繁殖力が旺盛(おうせい)で、道端や荒地には特に多く見られます。
- 花びらの下の萼(がく)のような総苞外片(そうほうがいへん)が反り返るので、在来種と区別できます。

3. セイタカアワダチソウ



3. セイタカアワダチソウ(キク科)

- 花の時期: 10～11月
- 花の色: 黄色
- 高さ: 1～2.5m(北米原産の外来植物)
- 川の土手や荒地など一度破壊された土地に群生し、地下茎(ちかげい)を伸ばしても増えます。
- 花は茎の上の方に多数の小さな黄色の頭花が穂状につき、全体が大きな円錐状になります。
- 茎や葉に短毛(たんもう)があってざらつき、葉の長さは6～13cmで先がとがっています。

4.カントウヨメナ



4.カントウヨメナ(キク科)

- 花の時期: 8～11月
- 花の色: 淡青紫色
- 高さ: 0.5～1m(多年草)
- 田のあぜや川べりなど湿地に生え、関東以北に分布しています。
- 地下茎(ちかけい)を伸ばしても増え、茎の上部で枝分かかれた花柄の先に直径3cmほどの花をつけます。
- 若菜摘(わかなつみ)で有名なヨメナは中部地方以西に分布しますが、このカントウヨメナも“ヨメナ”と呼んで摘まれます。

5.キタミソウ



5.キタミソウ(オオバコ科)

- 埼玉レッドデータ絶滅危惧1B類
- 埼玉県希少野生動物植物の種の保護に関する条例による指定種
- 花の時期: 10～12月と3～4月
- 花の色: 白色 高さ: 5cm
- 北方のツンドラ地帯を中心に広く分布していますが、国内では北海道、埼玉、奈良、熊本の各道県に隔離分布するとても珍しい植物です。
- ごく小形の植物で花の大きさは1～2mm。
- 葉は長楕円形(ちょうだえんけい)で無毛、長さは1～2cmで長い柄があります。
- 堰(せき)の上流や用水の脇など湿り気があり、冬季には水がなくなり、夏場は冠水する特殊な場所を好んで生育します。
- 市内では、葛西用水だけに生育しています。

6.スミレ類



6.スミレ類(スミレ科)

- 花の時期: 4～5月
- 花の色: 濃紫色、薄紫色、白色
- 高さ: 7～11cm
- 明るい雑木林のふち、人間が草を短く刈っている土手や田畑の畦(あぜ)などに生えることが多い植物です。
- 根は茶色、茎はごく短く、葉は根もとに固まって生えます。葉柄の上部にひれのような翼があり、花の側弁の基に白い毛があります。
- 園芸種が多く見られますが、これは調査対象としません。(パンジー、ビオラなど)

7.ミゾソバ



7.ミゾソバ(タデ科)

- 花の時期:7～10月
- 花の色:淡紅色または白色
- 高さ:0.3～1m(1年草)
- 花びらは5つに分かれ、枝先に10数個集まってつき、ソバの花に似ています。
- 茎には下向きの刺(とげ)があり、下部は地面をはい、多数枝分かれして密生(みっせい)します。
- 葉は長さ4～10cmの卵状ほこ形で先が鋭くとがっています。
- 田のあぜや水辺など、湿った所に群生します。

8.イヌタデ(アカマンマ)



8.イヌタデ(アカマンマ)(タデ科)

- 花の時期:6～11月
- 花の色:紅紫色をした小さな花を密につけます。
- 高さ:20～40cm
- 野原や道端、畑などに生えます。
- 葉は、互生(ごせい)で葉の両端がとがり、葉先に向かってだんだん細くなります。
- 茎の基部は横にはい、まっすぐか斜めに傾いて伸び、多く枝分かれして小さな集団を作ります。
- 紅紫色の粒状の花を、赤飯にたとえてままごと遊びに用いたので、アカマンマともいいます。

9. ツククサ



9. ツククサ(ツククサ科)

- 花の時期:6～9月
- 花の色:二つ折れになった苞(ほう)の間から青色の花が次々と咲きます。
- 高さ:15～50cm
- 道端、草地、畑などにごく普通に生える一年草。平地に群生します。
- 茎は地をはい、良く分枝し、上部は斜上して高さ30cm～50cmになります。
- 葉は互生(ごせい)し、長さ5cm～8cm、幅1cm～3cmの卵状披針形(ひしんけい)です。基部は膜質の鞘(さや)があります。

10.ヨシ(アシ)



10.ヨシ(アシ)(イネ科)

- 花の時期: 8～10月
- 花の色: 淡紫色を帯びた多数の小さな穂からなります。
- 花穂(かすい): 20～40cmの大型の円錐状で、淡紅色を帯びた小穂(こすい)をつけます。
- 高さ: 1.5～3m(多年草)
- 世界各地の沼、川岸に大群落をつくります。
- 茎は太くて固く、茎はヨシズになります。
- 葉は2列に互生(ごせい)し、長さは20～50cm、幅は2～4cmの線形で、先端は垂れています。

11.ハンノキ



11.ハンノキ(カバノキ科)

- 実の時期: 10月
- 実の特徴: 1.5～2cmの松ぼっくり状
- 高さ: 15～20m(落葉樹)
- 川辺や低地の湿った所に生えています。
- 花は2～3月、葉の出る前に開き、雄花序(おすかじょ)は枝先に2～5個つき、尾状に垂れています。
- 樹皮は暗灰褐色で、不規則に浅く裂けてはがれます。
- 葉は互生(ごせい)し、長さ5～13cmの長楕円(ちようだえん)状卵形で、ふちには浅い鋸歯(きょし)があります。
- ミドリシジミ(県の蝶)の幼虫が葉を食べます。

12.エノキ



12.エノキ(アサ科)

- 実の時期: 10月
- 実の特徴: 直径5-6mmの球形
- 高さ: 20m(落葉樹)
- 道路、社寺の境内、山地に生えています。
- 花は4月に新枝の下部に雄花、新枝の上部に両性花を付けます。
- 樹皮は厚く灰黒褐色です。
- 葉は互生(ごせい)し、長さ4-9cmの卵形又は長楕円形で、先は尾状にのびています。先端まで葉脈が発達しておらず、丸みを帯びています。
- オオムラサキやゴマダラチヨウの幼虫が葉を食べます。

13.クヌギ



13.クヌギ(ブナ科)

- 実の時期: 10月
- 実の特徴: 球形で茶色
- 高さ: 10~15m(落葉樹)
- 低い山地に生え、樹皮は灰褐色で厚く、縦に不規則な裂け目があります。ここから出る樹液に、多くの昆虫たちが集まります。
- 葉は互生(ごせい)し、長さ7~15cmの長楕円状披針形(ちょうだえんじょうひしんけい)です。鋸齒(きょし)があり、先端は針状になります。
- 4~5月ごろ、枝の下部から黄褐色の7~8cmの雄花序(おすかじょ)の垂れているのが目につきます。
- 枯葉になっても枝からなかなか落ちず、2月くらいまで枝についていることがあります。

14.幹周り2m以上の樹木



14.幹周り2m以上の樹木

- 長い時を経て育まれた巨木は、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要なものです。
- 調査は、原則として地上から1.3mの高さでの幹周り2m(直径64cm)以上の木を対象にします。

15.メジロ



15.メジロ(メジロ科)

- 体の大きさ: 12cm
- 鳴き声: チィチィ
- 留鳥(一年中見られます。)
- 緑がかった背と目の周りの白い輪が特徴です。
- 非繁殖期は山地から平地に移動し、群れで行動することが多いです。
- 繁殖期はつがいで分散し、2羽で鳴き交わしながら花から花へと飛び回る様子がよく観察されます。
- 市街地の緑地のある公園や庭でもよく見かけます。

16.キジバト



16.キジバト(ハト科)

- 体の大きさ: 33cm
- 鳴き声: ゼゼツポポー、ゼゼツポポー
- 留鳥(一年中見られます。)
- ドバトより少し小さく背中が灰褐色、頭から胸腹にかけては淡い褐色をしています。
- 首の横には灰青色のしま模様があります。
- 「ヤマバト」とも呼ばれています。
- 低い山地や林にすんでいます。近年は市街地の公園や庭でもよく見かけます。

17.コサギ



17.コサギ(サギ科)

- 体の大きさ: 61cm
- 鳴き声: グワアまたはグァア
- 留鳥(一年中見られます。)
- 体の全体が白色でくちばしは黒、目先は黄色、足は黒で指は黄色です。
- 夏には、頭部に2本の冠羽(かんう)、背中にカール状の飾り羽を持っています。
- 水田や池沼、湿地、河川などに生息し、林に集団で営巣(えいそう)し繁殖します。

18.カルガモ



18.カルガモ(ガンカモ科)

- 体の大きさ: 60cm
- 鳴き声: ゲェツ、ゲェツ
- 留鳥(一年中見られます。)
- 足は鮮やかなオレンジ色をしています。
- 全体に黒褐色で頭は白っぽく、顔には2本の黒褐色の線があります。
- くちばしは黒色で先端部が黄色、オスとメスが同じ色です。
- 河川や水田、湿地などに生息します。

19.カワセミ



19.カワセミ(カワセミ科)

- 体の大きさ: 17cm
- 鳴き声: チー
- 留鳥(一年中見られます。)
- くちばしが長い分、スズメより大きく見えます。
- 翼は金属光沢のある緑色、背中はコバルトブルー、正面から見ると胸から腹のオレンジ色が目立ちます。
- 水辺にすみ、ダイビングして小魚を獲ります。
- チーと鳴きながら低空を一直線に飛びます。
- 近年、市内各地で生息の確認が増えています。

20.コゲラ



20.コゲラ(キツツキ科)

- 体の大きさ: 15cm
- 鳴き声: ギー、ギー
- 留鳥(一年中見られます。)
- 一番小さなキツツキの仲間で、スズメくらいです。
- 背は黒褐色と白の横じま模様です。
- 木の幹をつつきながら螺旋状に昇り、餌を探します。
- くちばしで木を強く連続して叩いて音を出すドラミングも行います。
- 繁殖期にはキーキツキツと鋭く鳴きます。
- 枯れ木に穴を掘って営巣しますが、近年、市街地でもその例が増えています。

21.ツバメ



21.ツバメ(ツバメ科)

- 体の大きさ: 17cm
- 鳴き声: ピチュピチチュピチュピリリ
- 夏鳥(3月～10月)
- 頭と背中は黒色、額(ひたい)と咽(のど)は赤褐色、尾は2本に分かれている燕尾型(えんびけい)が特徴です。
- 飛んでいる虫を空中で捕らえる姿をよく見ます。
- 人家の軒下(のきした)に土と枯れ草で巣をつくります。ねぐらは河原のヨシ原等です。

22.ツバメの巣



22.ツバメの巣

- 材料: 土と枯れ草
- 形: おわんを割って付けた形
- 昔から幸運の鳥として、家に巣をかけると大変喜ばれます。
- 商店の店先、アーケード、駅、住宅の軒下(のきした)など壁に直接付けてつくる場合と、台(照明器具など)の上につくる場合があります。
- 近年はカラスが近づかないような奥まった場所に巣をかけることが多くなっています。

23.ハクセキレイ



23.ハクセキレイ(セキレイ科)

- 体の大きさ: 21cm
- 鳴き声: チチツ、チチツ
- 留鳥(一年中見られます。)
- スズメより少し大きく、白と黒色の模様をしていて尾は黒色、外側の尾羽は白色です。また、くちばしと足は黒色です。
- 海岸や河口の砂地、川岸、水田等、低地の水辺にいて、地上を歩いて昆虫をとります。
- 最近では街の中でもよく見かけ、秋や冬には繁華街の街路樹に集団でねぐらをとることがあります。

24.モズ



24.モズ(モズ科)

- 体の大きさ 20cm
- 鳴き声: キーキー、キチキチ、キュンキュン
- 漂鳥(季節によって短距離の移動をします。)
- スズメより大きく、くちばしや足が黒っぽく、頭が大きく、目を通る黒い帯があります。
- 林や畑にすんでいます。
- 小さな体なのに、くちばしはタカのようにカギ型をしており、小鳥を捕えることもあります。
- 昆虫やトカゲ等の獲物を、木の枝につきさしておく習性があります。これを「モズのはやにえ」といい、冬によく見られます。

25.ツグミ



25.ツグミ(ヒタキ科)

- 体の大きさ: 24cm
- 鳴き声: クェックェツ
- 冬鳥(11~4月)
- スズメより大きい。
- クリーム色の眉(まゆ)、胸の黒いぼつぼつ、栗色の翼が特徴です。
- 畑や芝生、草地で見られます。
- とんとんとはねるように歩き、胸をそらせた姿勢で立ち止まっては餌(えさ)をついばみ、また歩くという動作をくりかえします。

26.オオヨシキリ



26.オオヨシキリ(ヒタキ科)

- 体の大きさ: 19cm
- 鳴き声: ギョギョシ
- 夏鳥(5~10月)
- スズメより大きく、全身薄茶色で口の中が赤いのがよく目立ちます。
- 川岸や湖沼などのヨシ原に見られます。
- 繁殖期には大きな声でさえずり、昆虫等を食べます。
- アシの茎を何本かたばねて、コップ形の巣をつくります。

27.シジュウカラ



27.シジュウカラ(シジュウカラ科)

- 体の大きさ: 14cm
- 鳴き声: チーजूク、チーツ
- 留鳥(一年中見られます。)
- スズメより小さく、オスとメスが同じ色です。
- 頬(ほほ)のあたりが白く、胸から腹までのネクタイ状の黒線は、オスは太くはっきりしていて、メスは細くうすくなっています。
- 庭や公園で見られ肉の脂身や昆虫、種子を好み、巣箱などによく巣をつくります。

28.オナガ



28.オナガ(カラス科)

- 体の大きさ: 36cm
- 鳴き声: グェーイ、グェーイ、ギューギュー
- 留鳥(一年中見られます。)
- ハトより小さくてスマートな鳥です。
- 背と腹は褐色を帯びた灰色で、黒い頭と空色の翼、長い尾が特徴です。
- 公園や庭、給餌台(きゅうじだい)にも姿を見せ、雑食性です。

29.モンシロチョウ



29.モンシロチョウ(シロチョウ科)

- 翅(はね)の大きさ: 20~30mm
- 翅(はね)の色: 白
- 見られる時期: 3~11月
- 誰でも知っている身近なチョウです。
- 幼虫は、青虫とも呼ばれ畑の野菜(キャベツやダイコン等)の葉を食べます。特に、キャベツ畑では、この白いチョウをよく見かけます。
- 翅の筋があまり目立たないのがモンシロチョウの特徴です。

30.アゲハチョウ



30.アゲハチョウ(アゲハチョウ科)

- 翅(はね)の大きさ : 80~120mm
- 翅(はね)の色: 黒地に黄白色の斑紋や線が多数入り、複雑な模様をしています。後翅には、さらに水色や橙色の斑紋があり、突起した内側の翅には橙色の円形の斑点もあります。
- 見られる時期: 3~11月
- ごく普通に見ることができるため、並に見られるアゲハチョウと名付けられたのがナミアゲハで、アゲハチョウと言えはナミアゲハを指すことが多いです。
- やや黄色っぽいアゲハチョウはキアゲハで、前翅の付け根が黒くなっていることで、ナミアゲハと見分けることができます。(ナミアゲハでは縞模様になっています。)

31.アオスジアゲハ



31.アオスジアゲハ(アゲハチョウ科)

- 翅(はね)の大きさ:38~48mm
- 翅(はね)の色:黒色で中央に青色の広い帯
- 見られる時期:4~5月と7~8月
- 幼虫はクスノキ科の樹木の葉を食べ、さなぎで冬を越し、春から夏にかけて羽化します。
- 飛び方が素早く、花に集まりますが、湿った所などで水を飲んでいることもあり、いろいろな所で見ることができます。

32.ナガサキアゲハ



32.ナガサキアゲハ(アゲハチョウ科)

- 翅(はね)の大きさ:60~80mm
- 翅(はね)の色:黒色で雄は青灰色の鱗粉が光ります。
- 見られる時期:5~10月
- 幼虫はミカンやカラタチなどのミカン科の栽培品を好んで食べます。
- 国内の分布は関西以西とされていましたが、近年関東から東南北部に広げており、市内でも時々見かけます。
- クロアゲハに似ていますが、後翅の尾状突起がないことや、翅のつけねに赤い斑紋があることで区別できます。

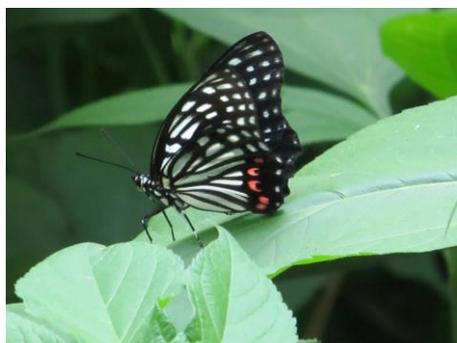
33.ツマグロヒョウモン



33.ツマグロヒョウモン(タテハチョウ科)

- 翅(はね)の大きさ:38~45mm
- 翅(はね)の色:ヒョウモンの名のようにヒョウ柄となっています。後翅の先端は黒くなります。
- 見られる時期:4~11月
- 幼虫はパンジーなどスミレ科の栽培品を好んで食べますが、野生のスミレも被害が目立ちます。
- 終齢幼虫になると黒色で背面に赤い筋が目立ち、とげとげしい幼虫となります。
- もともとは南方系の蝶とされていましたが、園芸用スミレ類の移動や温暖化の影響などで分布を広げています。

34.アカボシゴマダラ



34.アカボシゴマダラ(タテハチョウ科)

- 翅(はね)の大きさ: 75~95mm
- 翅(はね)の色: 黒色地に白斑が目立ち、口吸が鮮やかな黄色です。
- 胡麻(ごま)のように見える斑(まだら)模様があり、夏型には、後翅の外縁に沿って赤斑(あかぼし)があります。
- 見られる時期: 4~10月
- 東アジアの広域分布種。
- エノキを食草とするので、もともと日本で生息しているゴマダラチョウと生態的に競合するのではないかとされており、「要注意外来生物」に指定されています。

35.カブトムシ



35.カブトムシ(コガネムシ科)

- 体の大きさ: 30~54mm
- 見られる時期: 5~9月
- オスには大きな角があり、さらに胸部にも小さな角があります。この角は皮膚が発達したもので、餌場やメスの奪い合いに使用します。ただし角の大きさには個体差があり、これは幼虫時の水分や栄養状態で決まると言われています。
- メスには角はありませんが、わずかに頭部が尖り、脚が太く、鋭いとげが発達しています。土中にもぐるために都合がよいため、このように進化したと言われています。
- クヌギやナラ、ヤナギなどの樹液を餌にしています。

36.ニイニイゼミ



36.ニイニイゼミ(ゼミ科)

- 体の大きさ: 20~24mm
- 鳴き声: 「チー」が数秒、急に音が高く大きくなって「ジー」数秒ほどで緩やかに「チー」へ戻り、数秒後に再び「ジー」となり、鳴き終わりは「チッチッチ…」となります。
- 見られる時期: 6~9月
- 頭部と前胸部の地色は灰褐色で後胸部と腹部は黒色です。後胸部の背中中央には橙色の「W」字型の模様があります。
- 他のゼミに比べて体型は丸っこく、横幅が広いです。
- 複眼と前翅の間に平たい「耳」のような突起がありません。

37.クマゼミ



37.クマゼミ(セミ科)

- 体の大きさ: 43~48mm
- 鳴き声: シャーシャー
- 見られる時期: 7~9月
- 全体が黒い大型のセミで、翅(はね)はミンミンゼミのように透明ですが、上半分の脈には緑色が混じります。
- 体には褐色の細かい毛が生えています。
- 午前中だけシャーシャーという機械のような大きな声で鳴くのが特徴です。
- 西日本に多く生息しますが、近年では関東地方でも目撃情報が増えつつあり、ヒートアイランド現象や温暖化の影響などで分布をひろげています。

38.ツクツクボウシ



38.ツクツクボウシ(セミ科)

- 体の大きさ: 29~31mm
- 鳴き声: ジュクジュクジュク...オーシン・ツクツクツク・オーシン・ツクツクツク...ウィオーシー・ウィオーシー・ウィオーシー
- 見られる時期: 7~9月
- 黒褐色の体に、暗緑色の模様がついた透明な翅(はね)を持つ小型のセミです。
- メスには長い産卵管があるので、雌雄は簡単に見分けられます。

39.オオカマキリ



39.オオカマキリ(カマキリ科)

- 体の大きさ: 70~95mm
- 見られる時期: 8~11月
- カマキリの中でも大型で、緑色か薄茶色をしています。
- 人家の生垣、公園の樹木などで見かけます。
- 肉食性で、低い草や木の茎、葉に止まっていて、やってくるチョウやセミなどの獲物を待ちます。
- 冬には枝などについた「麩(ふ)」のような卵囊(らんのう)が見つかります。

40.シオカラトンボ



40.シオカラトンボ(トンボ科)

- 体の大きさ: 50~55mm
- 翅(はね)の長さ: 80~90mm
- 見られる時期: 4~10月
- みんなが親しんできたごく普通にいるトンボです。
- 池や沼で発生します。羽化したばかりの時は黄色をしています。
- 成熟するとオスは黒化し、白い粉をふいて、いわゆる「塩辛(しおから)トンボ」になります。
- メスは黄緑っぽくなり、いわゆる「麦藁(むぎわら)トンボ」と呼ばれています。

41.トノサマバッタ



41.トノサマバッタ(バッタ科)

- 体の大きさ: 35~65mm
- 見られる時期: 7~11月
- きれいな緑色で、濃茶色と白色のまだら模様の翅(はね)を持った大型のバッタです。
- 空き地や河原など、開けた場所の地上にいます。
- ススキなど、イネ科の植物の葉を好んで食べます。
- 高い飛翔力を持つうえに、人の気配に敏感で、そばに近よるのが難しいバッタです。
- 別名、ダイミョウバッタと呼ばれます。

42.アマガエル



42.アマガエル(アマガエル科)

- 体の大きさ: 20~45mm
- 見られる時期: 3~11月
- 低気圧が近づくと雨を察知し「グエッグエッグエツ」とけたたましく鳴きます。
- 鼻筋から目、耳にかけて褐色の太い帯が通っています。
- 前足に4本、後足に5本の指があり、すべての指先に丸い吸盤があります。
- 体色は腹側が白色で、背中側が黄緑色ですが、背中側は黒っぽいまだら模様の灰褐色にも変えることができます。
- 皮膚はつるつるした粘膜に覆われますが、この粘膜からは体を細菌などから守るため毒が分泌されています。